

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

# ほっかいどうの社会保障

2017年2月21日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

**いのちとくらしを守れ！ 総決起集会 250人が参加**

2月18日、道社保協、消費税廃止各界連、介護に笑顔を！道連絡会、高齢期運動連絡会の共催で、「いのちとくらしを守れ！2.18総決起集会」が行われ、全道から250人が参加しました。



消費税の増税や医療・介護・保育・福祉

などの社会保障の後退、高学費などで、子ども・学生・青年から高齢者まで国民の生活や中小業者の経営が大変になっています。この集会は、毎年、国会で予算が決まる前に、道民の各分野の深刻な実態や取り組みを交流し合い、政府に対して、いのちとくらしを暮らせるため、共同してアピール行動を行っています。

安倍自公政権は、今年も「国民のいのちとくらし」を壊す予算案や法案を準備しています。集会では、北海道医療大学の太友芳恵教授が特別報告し、リレートーク（8分野）が行われ、最後に集会アピール「社会保障は私たちの権利！いのちとくらしを守れ！」を確認し、参加者全員でメッセージボードを掲げました。

## 国は、25条ともに、憲法13条の幸福追求権の保障を！

大友芳恵教授が特別報告「高齢者をめぐる状況（貧困）と国のあり方」



「私はできるだけ、孫にあわないようにしているの」「今週、人にあったのはあなたがはじめだよ」大友教授は、道内の高齢者調査での生の声を紹介しました。「孫はかわいいけど、あげる小遣いがない」「人に会う際に持っていくお菓子が無い」など経済的理由で人間関係を遮断している指摘。

先進国における貧困についても説明し、日本の高齢者の貧困率は、OECD24か国の中で5番目と高く、年金額が低くすぎると強調しました。

最後に、「国に望んでいかなければいけないことは、憲法25条の生存権の規定も当然ありますが、憲法13条の幸福追求権の保障です。私たち一人ひとり幸福を追求し、尊厳ある状況として尊重されます。人間らしい生活を保障するためには、社会ミニマムの給付水準が必要となると思います」と訴えました。

## 青年から高齢者まで 医療・年金・福祉など各分野から 深刻な実態告発

年金生活者	盛 朝雄さん	年金者組合	子どもの医療費	高橋春香さん	新婦人の会白石支部
中小業者	松田鉄蔵さん	札幌北部民商	青年労働者	山崎郁夫さん	札幌青年ユニオン
生活保護利用者	吉田弦一さん	生活と健康を守る会	障害者	大倉康範さん	障道協
医療現場から	行沢 剛さん	勤医協苫小牧病院	介護現場から	木幡秀男さん	介護に笑顔を！道連絡会

